

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月28日

【評価実施概要】

事業所番号	0172902462		
法人名	極東警備保障株式会社		
事業所名	グループホーム 大空Ⅱ		
所在地	北海道旭川市永山2条14丁目2-4 (電話) 0166-46-5166		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年2月27日	評価確定日	平成20年3月13日

【情報提供票より】 (平成20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 17年 12月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤10人, 非常勤6人, 常勤換算8.36人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	平屋 建ての ~ 全部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	トイレなし 25,000円 トイレあり 28,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費 16,500円 公益費 1,500円 暖房費(10~4月) 6,000円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 300 円	昼食 350 円	
	夕食 350 円	おやつ 60 円	
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名
要介護3	8 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.67 歳	最低 75 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	博愛内科胃腸科医院、宮田歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広い敷地の中に生活しやすい建物構造で、天窓から入る光で広いリビングは明るく清潔感があり、利用者の集いの場となっています。家族とホームの関係も良好で、利用者の家族が持ってきてくれる、季節毎の花や飾りがホーム内に彩りを与え四季の移り変わりを楽しめる居心地よい空間となっています。職員同士及び利用者との良好な対人関係の中で職員の温かい見守りを受け自己のペースでゆったりと豊かな表情で過ごされています。平成17年に開設して2年が経過し、管理者を始め全職員は、利用者本位のケアの実践に向け懸命に努力を重ねられている様子がみられ、さらなるサービスの向上に意欲を示されており今後の活動が期待されます。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善項目、権利・義務の明示は、契約書に追記されています。介護計画の内容を全職員が把握できるシステムに改善されています。職員は弁当を持参し一緒に食事できるように前向きな姿勢で取り組まれており、その他の改善課題も改善に向けた話し合いが行なわれています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者や職員は、自己評価や外部評価を実施する意義は理解されていますが、今回の自己評価は職員全員では行なわれていません。自己評価の改善課題を明確にし、具体的な改善に向けて全職員で検討を重ね、より良いサービス提供への取り組みを期待します。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 現在、運営推進委員会は開催されていません。地域の人にグループホームを知ってもらいよい機会となるので早い時期に開催されることを期待します。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月発行している「大空Ⅱ通信」は写真を多く取り入れ、利用者一人ひとりの表情や日常が生き生きと伝わる素敵な通信となっており、家族からも好評を得ています。日頃から家族との交流を図り、気軽に意見・要望を話せるような雰囲気作りに努めています。また、家族から意見や要望が出た際には、迅速に対応方法を協議し改善に努めています。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	利用者が地域のなかで、その人らしい暮らしができるよう、地域住民の理解を得るよう取り組みが必要であり、町内会の行事や地域の祭事への参加、またホームでの催しに地域住民を招待するなど、積極的な交流を行ないつつ地域との係わりを深めるよう取り組みを期待します。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、ホームの見やすいところに明示され、全職員に浸透し理念を実践するため日夜努力されているが、地域密着型サービスとしての理念の見直しや職員間での話し合いが行なわれていない。	○	現在の理念に加えて地域密着型のサービスの役割を考えながらホーム独自の理念を再度作りあげていくことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、ミーティングや日々の申し送りなどを通して職員と共有し、理念を認識しながら利用者への支援に努めるよう日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、グループホームへの認識と理解を高めて頂くよう考えているが、近隣住民との交流が図られるまでには至っていない。	○	町内会の回覧板を利用した広報や町内の行事、また、お祭りや地域行事への参加、ホームでの催しに地域住民を招待するなど、積極的な交流を行ないつつ地域との係わりを深めるよう取り組みを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者および職員は、自己評価や外部評価を実施する意義を理解し、前回外部評価の改善課題は全職員で話し合いがもたれ改善に向けた取り組みが行なわれている。今回の自己評価は全職員で取り組まれておらず、また、見出された課題の具体的な話し合いも行なわれていない。	○	自己評価作成には全職員が参画することで、意識を合わせ、ケアの振り返りなどが可能となるため、自己評価のねらいや活用方法を理解し、また改善への取り組みには改善計画シートを利用するなど、改善に向けて具体案の検討や実践につなげる取り組みを期待する。

旭川市 グループホーム大空Ⅱ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加者には理解は得られているが、開催には至っていない。	○	地域に働き掛けを行ない早い時期に会議が開催されることを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員が月1回来訪し、「便り」や情報提供、研修会の案内を頂くなど協力関係を築いている。市の担当者とは、ホームとしての係わりや疑問点についての問い合わせは行なっているが、行政との積極的な連携にはまだ至っていない。	○	運営や現場の実情などを積極的に伝えたり、市から情報を提供してもらうなど、市の担当者と意見交換を頻繁に行ない、協力関係を築かれることを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「大空Ⅱ通信」を発行し、写真を多く取り入れ利用者一人ひとりの表情を良く伝えており、家族から好評を得ている。家族の来訪時に日々の暮らしぶりや心身の状況を伝え、来訪できない家族には電話で伝えている。金銭管理については請求書とともに出納簿と領収書を添付し、毎月送付し明細を明らかにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族との交流を図り、気軽に意見・要望を話せるような雰囲気づくりに努めている。また、意見や要望が出た際には、迅速に対応方法を協議し改善に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ない離職の場合は、引継ぎを十分行ない職員全員で利用者をサポートをして、ダメージの緩和に配慮をしている。また家族への報告は通信に掲載し報告している。しかし、ゆとりあるケアについては人手不足が感じられる。	○	利用者の安心と、ゆとりある生活を確保し実現するため、また利用者、家族、職員の不安緩和や事故防止の観点からも人員増員がなされるよう期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、職員の能力や経験に応じて、研修を受講するよう促している。研修終了後は報告会を開催し、情報の共有化に努めているが、外部の研修への出席の対応は十分とはいえない。現在、委員会の設置を検討している。	○	外部研修などから得る情報は、地域密着型サービスの質の向上に役立ち、ホーム運営にも好結果をもたらすため、実務に支障のない計画的な外部の研修受講への取り組みを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、管理者会議や関連会議に積極的に参加している。地域包括支援センターが主催するグループホーム見学会に参加し、交流を通してお互いのサービスの向上を目指している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者や家族と十分に面談を行ない見学した後に入居となっている。利用者本人のペースで馴染むことができるよう配慮し、利用者や家族が安心して納得できるよう適切なサービス開始の調整を行なっている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの経験や得意なことを見極め、活躍できる場面作りの支援が行なわれている。また、利用者から昔話や生活の知恵を教わったり、励まされたり労わってもらうなどともに支え合う関係作りに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントシートを活用し、家族から生活歴や環境、家族構成など情報を収集するとともに、利用者の日々の言動や表情から思いや願いを汲み取り、本人本位に検討し把握に努め共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントシートを活用し、課題の把握に努め日常のケアに活かせる取り組みが行なわれている。また、家族や利用者本人の思いや意向を取り入れ、職員が意見を出し合いながら介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直し、また、利用者の状況や状態の変化などにより見直しを行ない、職員と話し合いながらケアに反映させているが、現状に即した新たな介護計画の作成に至っていない場合もある。	○	介護計画の遂行状況や効果などの評価をするとともに、利用者や家族と話し合う機会を作りながら、現状に即したケアになるよう柔軟かつ臨機応変に介護計画が作成されることが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望に応じて、掛り付け医への通院介助や外出時の付き添いなど臨機応変に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する掛り付け医での受診支援や協力医療機関による週1回の往診などの受診支援が行なわれている。また医療連携により看護師の健康管理も行なわれ、利用者が適切な医療支援が受けられるよう配慮されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等並びにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化に関する指針を明示し、同意書が整備されている。家族や利用者の意向も尊重しながら医療機関とも相談し、対処する予定であるが、職員間での具体的な方針などについての話し合いは行なわれていない。	○	重度化や終末期に際してのあり方は、事業所を中心にできるだけ早い時期から本人、家族、医師、看護師を交えての話し合いを持つなどの取り組みを期待します。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りや羞恥心に配慮しながら日々のケアを行なっている。入室時の声掛けや自尊心を傷つけないようにさりげない対応に心掛けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての1日の基本的な流れや生活リズムへの配慮がされており、利用者の生活歴、体調やペースを大切にしたいその人らしい生活を送れるよう支援している。		

旭川市 グループホーム大空Ⅱ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の後片付けなど、利用者の得意なこと・関心のあることを把握し、楽しみながら支援されている。利用者の食事介助をする傍ら、職員は弁当持参し一緒に食事を取りながら優しく会話を交えて、楽しい食事ができるよう気配りをしている。	○	利用者と職員が同じ食卓を囲み同じものを楽しく食べることを理解し、利用者と一緒に食事を楽しめる環境作りの検討が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日が決まっており、午後に交代で入浴しているが、決められた日時以外でも希望があれば入浴でき、一人ひとりの状況に合わせた対応もされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできることや趣味を活かせるように支援されており、食器拭きや洗濯物たたみなど生活歴を生かした役割やレクリエーションなどの楽しみごとの実施により日常の暮らしに張り合いや喜びを見い出せるように努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物、通院への付き添い、戸外行事などの外出支援を行なっている。また、ホームに隣接された花壇や畑に収穫時に一緒に出掛け、成長の楽しみを持てるように支援されている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵を掛けない安全な暮らしについて理解しており、日中は施錠していない。職員は外出傾向のある利用者を把握しており、外出する様子の時には、さりげない声掛けや見守りが行なわれている。		

旭川市 グループホーム大空Ⅱ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な防災訓練、また、利用者も参加した防災レクリエーションも実施し不測に備えているが、近隣の人々との協力体制や緊急災害に備えた物品の備蓄がされていない。	○	職員の少ない夜間を想定した避難訓練、また、ホーム外への避難をした後の利用者保護も相当の人手を要するなど、近隣住民の協力体制は不可欠であり、日頃よりの働き掛けを期待する。また、指定の緊急避難場所を家族に通知するよう期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材を外部業者に発注し、毎日の食事メニューが決まっており栄養バランス、カロリーは計算されている。利用者一人ひとりの嗜好を把握し、独自の調整も行なわれている。また、利用者の水分摂取量、食事量など個別記録され職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓から入る光で広いリビングは明るくゆったりとしており、利用者の集いの場となっている。また、利用者の家族が季節毎の花や飾りを持参して頂き、四季の移り変わりを楽しめる居心地よい共有空間となっている。温度・湿度の配慮もされており、気になる臭いもなく、音・光なども適宜調節されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人が使い慣れた馴染みの家具や装飾品、生活用品を持ち込み家庭の延長的雰囲気の中で清潔で居心地良く過ごせる空間作りがされている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。